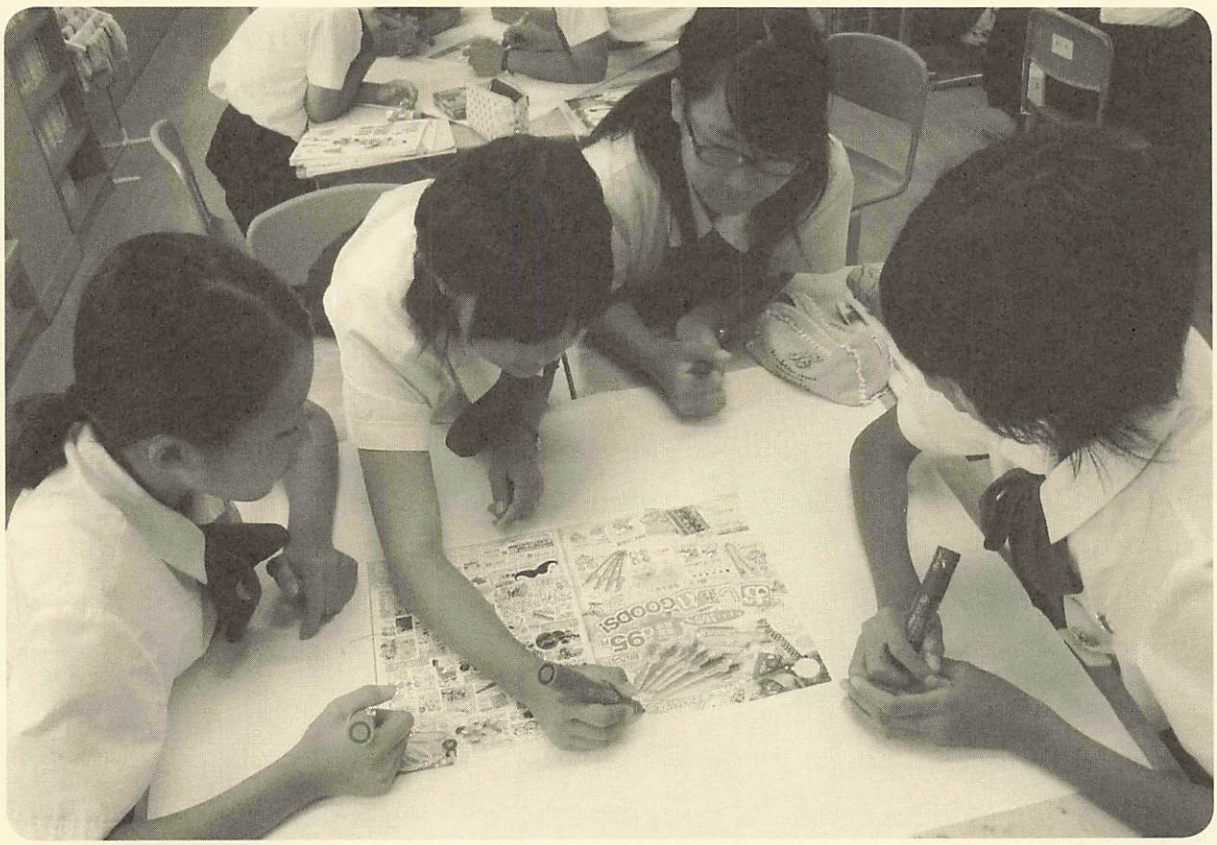
行く河の時間

教科領域研究テーマ
【生徒が自分らしく生き抜くための支援】



行く河

生徒が自分らしく生き抜くための支援

実　践　者　　山口　京子，（松原　由起　H23年度転出）
共同研究者　愛媛大学教育学部　　太田　佳光，日野　克博，夏野　良司

第１章　はじめに

１　研究テーマ設定の理由について

思春期は，自他の価値観の違いに悩んだり戸惑ったりすることが多く，自他の存在価値についても考え込み不安になる時期であるように思う。そして，特に，自己の存在価値に対する評価の低さが，不健康な行動（いじめ，不登校，暴力，非行など）に表れることが多い。これまで，この不健康な行動への対応は次のような内容が多かった。

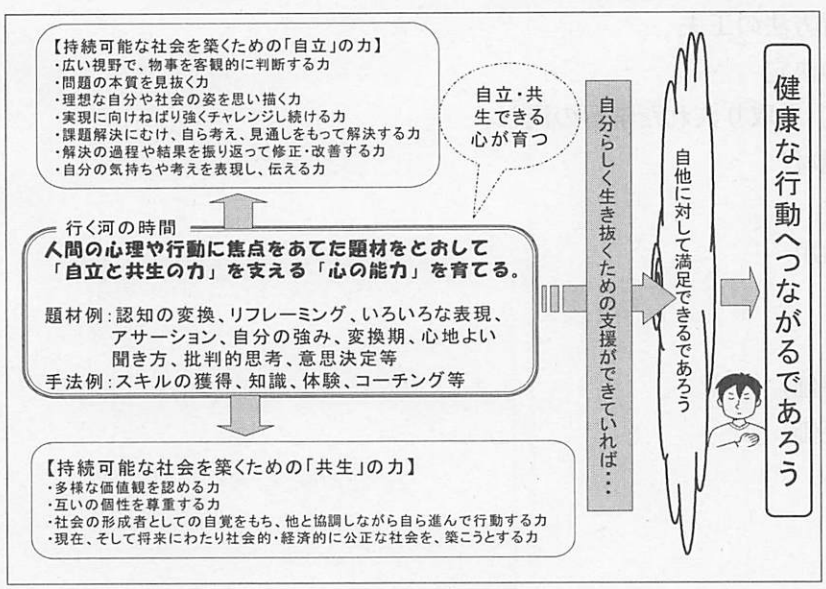
○　原因が，本人の性格，環境，人間関係だと考えていたため，学習するという概念はあまりなく教師が指導をすることが多かった。
○　対処療法的な関わり方や，早期発見，早期対応（二次予防）が多かった。

しかし，本研究では，次のようなことが重要だと考えた。

○　性格等の他に「心の能力」（自他を見つめる，意思決定する，行動選択する，批判的にみる，認知を変換するなどができる能力など）が大きく起因しているのではないか。
○　学校という教育の場が行うこととして，不健康な行動を取らない子どもを育てる（一次予防）ことが重要なのではないか。

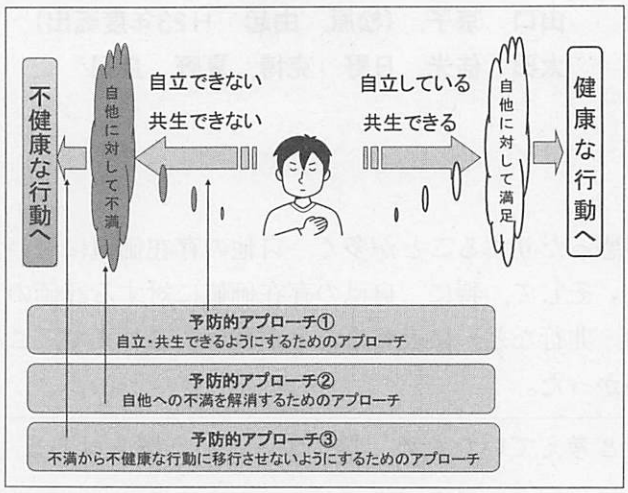
これまで，「心の能力」に着目した教育が継続的に行われることは少なかった。教育が人を創り，その人々が社会を創っているのであれば，現在の教育には「心」に関する教育が，今まで以上に必要なのではないだろうか。未開発分野の「心の能力」を，他の分野と同様に学校教育の中に系統的に位置づけることで，人間が新たな成長をし，その人々が今より豊かで，持続可能な社会を創り上げると考える。

そこで，本校が育てている自立と共生の力をもっている生徒は，不健康な行動は取らない生徒であろうという仮説をもった（資料１）。そして，「自立や共生の力」を育む方法として，「自立し共生できる心」を育てることを本研究のねらいにした。継続的に心を育てる時間を確保するために，学校教育で実施可能で系統的な「心の能力」の学びを教育課程の中に位置づけたいと考えた。基礎的研究は，次の二つを取り入れた。一つは，心理学を治療的な見地からではなく，予防的な見地で活用しようと



資料１　行く河の時間と自立と共生の力

いう考え方を示している「ポジティブ心理学」である。もう一つは，自尊心を高めることを目指している「ライフスキル教育」である。本校は，一昨年度から，この「心の能力」について学び高める時間を「行く河の時間」と位置づけ，専門家の助言を得ながら「行く河の時間」の学習内容や位置づけ，その評価について検証している。



資料２　予防的アプローチ

＜「心の能力」は教育するものではない？＞

子どもたちの周りの人的環境や物的環境が変化したことで，昔のような「心の能力」が自然に育つ場が少ない。そこで，教育の場である学校で，学ぶ時間を設定していくことが必要だと考える。学校で行う利点は，①個人だけではなく集団へのアプローチができること②教育の標準化が図れること③教育の時間が確保できること（詳しくは紀要63号・64号参照）である。

第２章　研究の実際

今年度は，情報に流されず，噂に惑わされないための学びの実践例（資料２：予防的アプローチ③）について報告し，第３章で３年間の実践からカリキュラムの位置づけについて提案したい。

生徒が自分らしく生き抜くための支援
― 情報への対処方法を考える（予防的アプローチ③）―
（実践者）　山口　京子　　（共同研究者）　日野　克博

１　研究内容と方法

うわさ話は悪い内容が多く，生徒の自尊心を傷つけ，人間関係を壊すことが多い。うわさ話と同様にあらゆる情報も，心身の健康を損う危険性が高くなってきた。身の回りの情報への対処方法を考えさせる予防的アプローチをねらった学習内容や展開を提案する。

(1)　情報に対する対処方法を身に付けさせるための工夫

- 記憶の定着が図れる学習方法の工夫
- 身に付けさせたい能力の決定
- 「知識」「体験」「再思考」を取り入れた学習の流れ
- 興味・関心が持続する題材

(2)　カリキュラムの位置づけ

- 教科による既習学習の活用
- 関連学習の活用

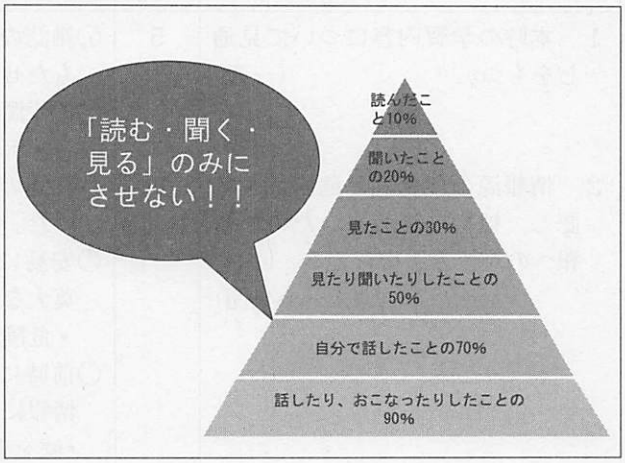
(3)　検　証

- 短期アンケート（短期評価）
- 長期アンケート（長期評価）
- 大学生の感想

2　研究の実際

(1)　情報に対する対処方法を身に付けさせるための工夫

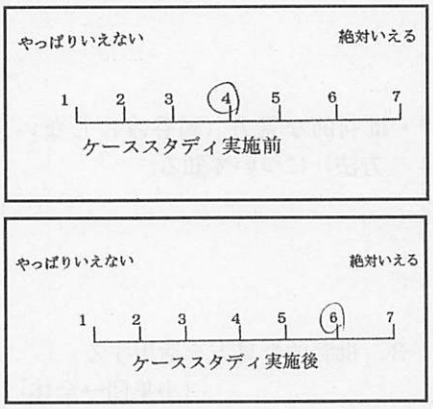
記憶の定着が図れる学習方法の工夫は「読む・聞く・見る」のみの授業にしないことだということが分かる。（資料３）そこで，実際に，「体験」から学べるように工夫した。事前アンケートで「知りたい情報は，何から得ますか」「最近よく読む雑誌名は何ですか」という項目で，生徒たちがよく読む雑誌を調べ，その雑誌を活用することにした。



資料３　記憶に残る学び

ここで身に付けさせたい能力は，情報を「批判的な思考」で読むことであった。そのために，鵜呑みにしてしまいがちな情報を一歩引いて「情報を分析する」という活動をさせたいと考えた。活動内容については，話したり行ったりしたことは90％くらいの生徒の記憶に残っていたという先行研究（資料３　Dale.E　1969年）を基に，工夫した。

「知識」「体験」「再思考」を取り入れた学習の流れは，これまでの実践から効果がある学習の流れだと感じている。2006年の実践報告で示したように，中学１年生女子80人に，４つ授業を行い，ケーススタディ実施前と実施後に資料４のような方法で自分の行動に対する自信度を比較するアンケート調査を行った。その結果，再思考を取り入れていた授業は，全て，自信度が１～４ポイント上がっていた。思考のみで再思考する時間がなかった授業では，実施後の方が下がっていた。下がった理由は，中途半端な思考では，知識を得た分，不安だけを得てしまい自信度が低下してしまったのだろうと推測している。「知識」を活かして「体験」をし，生徒たちは理解を深める。この時の理解は，一般的な感じ方や考え方を受け入れただけの理解であり，「自分の理解」ではないことが多い。「自分の理解」にするには，一般的な感じ方や考え方を受け入れただけの理解をし，分かったつもりになっているものを，再度，思考させることが有効である。

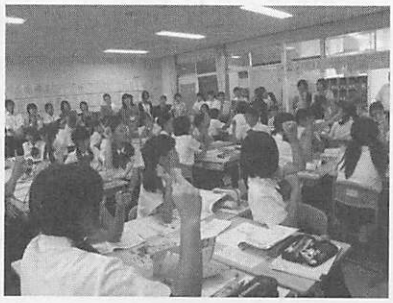
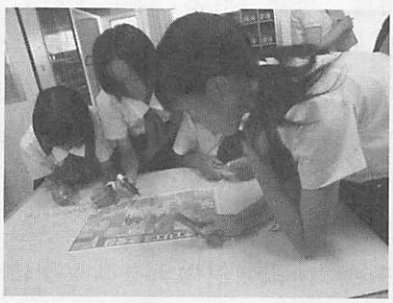


資料４　「再思考」前後の自信

再度，思考させることによって，これまでよりも深い理解につながり，生徒たちに新たな気付きが生まれてくるように思えた。つまり，自分が感じ，考えたことが自己理解や他者理解につながり，広く深い理解ができたからこそ，「行動がとれる自信」も高めることができたのだと考える。この時点で，意見の交流や認め合う場があれば，より自尊心の高まりが見えるのではないかと推測できる。本授業の「知識」とは，性情報と性被害を学ぶ時間で性情報の危険性について学んだことを意味する。「体験」とは，実際に情報を発信する立場に立たせて情報をつくる側の体験をさせ，情報発信のテクニックについて考えさせたことを意味する。「再思考」とは，情報を批判的な思考で読む体験をさせた後，情報発信のテクニックについて再度考えさせ，情報についての捉え直しと自分の対処方法を見付けることを意味する。

興味・関心が持続する題材にするために，生徒の身近なものを題材に取り上げた。今回は，生徒たちがよく読む雑誌を取り上げ，関連をもたせながらも提示を変えて，数回取り上げた。題材を身近なものにすることで，授業後も，雑誌を読む際に，批判的な思考を活用してみようという気持ちになり，実際に，本当の情報を選択する練習ができるのではないかと考えた。

学習の流れ（予防的アプローチ③）

学習活動（学習形態）	時間	○教師の働きかけ　•生徒の反応　◇評価の視点
1　本時の学習内容について見通しをもつ。（一斉）	5	○雑誌の表紙のパズルを行い，本時の授業内容の見通しをもたせた。 ○情報源は雑誌の他にどのようなものがあったか確認した。 •テレビ・インターネット　•友人や先輩　など
2　情報源の便利性と危険性を確認し，被害に遭わないための情報への対処方法を考える。（個人→小集団） • 批判的な見方（鵜呑みにしない方法）について知る。	10	○雑誌の内容を見せ，鵜呑みにしてしまいがちな体験をさせた。 ○安易に情報を鵜呑みにすると性犯罪の被害にあったり，莫大な金額を請求されたりする資料を提示した。 •危険だな　•こわいな　•どんなことかな ○前時に作成した広告を紹介し，感想を発表することで，情報には正しくない情報も混ざっていることを確認した。 •嘘を書いてしまった。　•少し大げさに書いてしまった。 ○発信者に悪気な気持ちがなくても，不確かな情報が出回ることがあることを思い出させた。  うそを・・・ 少し書いた（グー） たくさん書いた（パー） 書かなかった（チョキ） 正しい情報って？ 読み手をどんな気持ちにさせようとしているか 読み手に何をさせたいか 調査の仕方はどうか？（場所，対象，時期） コメントは真実みがあるか？
3　批判的な見方を活用する。（小集団→全体） (1)　批判的な見方を活用し，雑誌を読み，疑わしい部分を見付ける。 (2)　雑誌に載っている情報を批判的な見方で読み，どのようなテクニックが使用されているか知る。	25	○どのような情報の見方をしないといけないか考えさせた。 •疑ってみる　•信じない　•テクニックを見る ○興味を引くために雑誌が工夫しているところはどこか気付かせた。（広告の作成時に工夫した点を参考に考えさせる。） •言葉　•グラフ •写真やイラスト •色遣い　など  ○何気ない情報の中に，疑わしい情報が多いことに気付かせた。 ○いろいろな情報を鵜呑みにしたり流されたりしないように情報を読むテクニックを見付けさせた。

		◇批判的な見方を活かした情報の見方や判断のポイントが理解できたか。（ワークシート） ◇疑わしい情報を見極める活動を通して，積極的に関わり合いや自己表現ができたか。（ワークシート・観察）
4　正しい情報を選択するための方法について自分の考えをまとめる。（全体→個人） (1)　数学でも統計のトリックと言われているものがあることを知る。 (2)　その他の正しい情報を選択する方法を考える。	10	○性に関連する情報だけではなく，日常生活でも，あらゆる情報（うわさ話も含む）に対し，批判的な思考を活用する必要性を理解せるために，数学科の教員が統計のトリックについて説明した。 ◇批判的な思考力は，正しい情報を選択するために必要であることが理解できたか。
視　点	○「批判的な見方」を活用することは，全ての情報を鵜呑みにしない実践力へと結び付いたか。 ○「批判的な見方」を友人と行うことは，積極的な関わり合いへ結び付いたか。	

(2)　カリキュラムの位置づけ

「心の能力」を高めるには，他の教科と同様に「機会あるたびに・できることを・何度でも」行うことが効果的である。そのため，本単元の「行く河の時間」のねらい（情報を鵜呑みにせず，正しい情報を得て，自分の心身の健康を損なわないような意思決定や判断をする力を身に付ける。）を達成するために，ねらいに関連がある教科等を探した。関連する教科等や時間数は少ないため，関連する学習内容が他教科での学習につながるようにした。学習をつなぐことによって，知識の定着も図られるのではないかと考えている。

本授業は，「行く河の時間」のねらいと保健体育科保健分野とのねらいとに関連性が見られたため，保健分野で実施した。今回の学習指導要領の改訂で保健分野で重要視されている「自らの健康を適切に管理し改善していく思考力・判断力などの資質や能力を育成する」という点で関連し，評価もできる内容である。「行く河」のねらいを達成するための単元を次のように提案した。提案している単元構成は，１年生の保健学習の内容に関連するため，１年生の保健学習として提案する。

本単元の概要と指導の工夫

次	学習の流れ	時間	○指導の工夫	備
1	「性機能の発達」	2	○思春期に見られる体の変化の意味を理解させ，こうした変化に対応した適切行動について考えさせる。 ○ブレインストーミングを取り入れ，独自性の感覚や結合性の感覚を感じさせ，自尊感情をもたせる。	保健体育
2	「性とどう向き合うか」 ①広告を作ろう！　1 ②正しい情報って？　1 ③トラブルが起きたときの対処方法を考えよう　1		○情報を発信する活動を通して，悪意がなくても不確かで不誠実な情報が発信してしまうことを理解させる。 ○関わり合いの中で，性に関する情報とどのように向き合い対処するかを批判的な見方で思考させる。 ○情報を収集するときの注意点を考えさせる。 ○トラブルやその対処法をできるだけたくさん挙げて考えさせ，多くの対処法の選択肢を準備できるようにさせる。	行く河
3	「心の発達」	2	○思春期に見られる心の変化の意味を理解させ，こうした変化に対応した適切行動について考えさせる。 ○ブレインストーミングやロールプレイングを取り入れ，独自性の感覚や結合性の感覚を感じさせ，自尊感情をもたせる。	保健体育

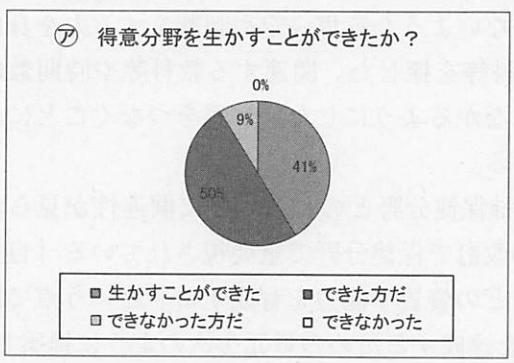
「行く河の時間」で提案している「心の能力」を高める学習内容は，他の教科の学習内容に類似しているところがある。本単元では，保健学習の他に数学科の学習内容と類似しているところ

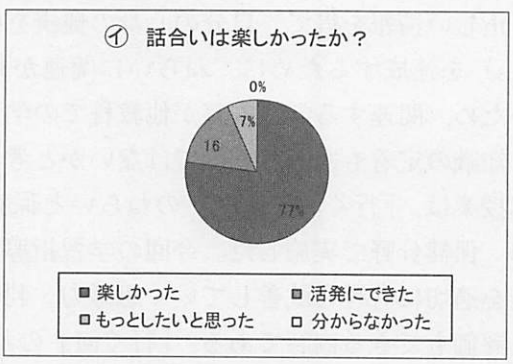
があったため，数学科とも関連させて計画を立てた。数学科の「統計」を教える単元で「資料の傾向を正しく読み取ることができる」という学習がある。この学習と，「行く河の時間」が行っている「正しい情報を見極めるための対処方法を身に付けることができる」という学習は，「情報を鵜呑みにしない」という同じメッセージをもっている。本授業の最後に数学科教員に協力してもらい，数学科の「統計のトリック」についての部分を紹介し，「情報の鵜呑み」の危険性について，広い視野で押さえることができた。

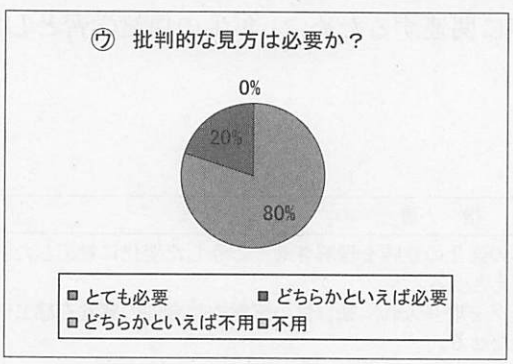
(3) 検　証

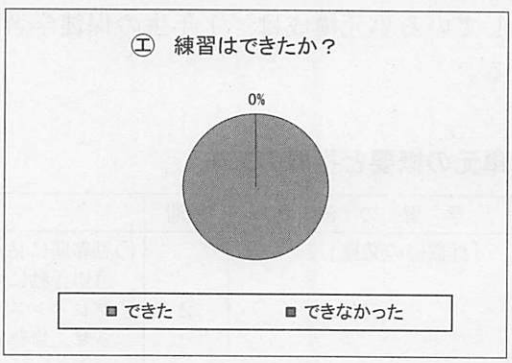
対象：中学１年生女子80名（Ａクラス40名　Ｂクラス40名）中学３年生男女（Ｃクラス40名）

短期アンケートからの検証（対象：中学１年生女子 80 名）は，授業直後の学習プリントの記述内容（批判的思考の練習欄，感想，標語）や自己評価結果（グラフ㋐～㋓）から検証した。自立と共生については，㋐「自分の得意分野を生かして活動できましたか」㋑「友人との話合いは楽しくできましたか」という質問で見取った。自立と共生の力は，すぐに効果が現れないことが多い。しかし，大きな変化は，これらの気持ちの変化の積み重ねによって得られるものだと考えているため，この小さな変化で見ることにした。批判的な見方についての理解度は，㋒「批判的な見方をすることは，人や物に対する情報を収集するときに，必要な能力だと思いますか」㋓「批判的な見方の練習はできましたか」という質問と，感想から見取った。

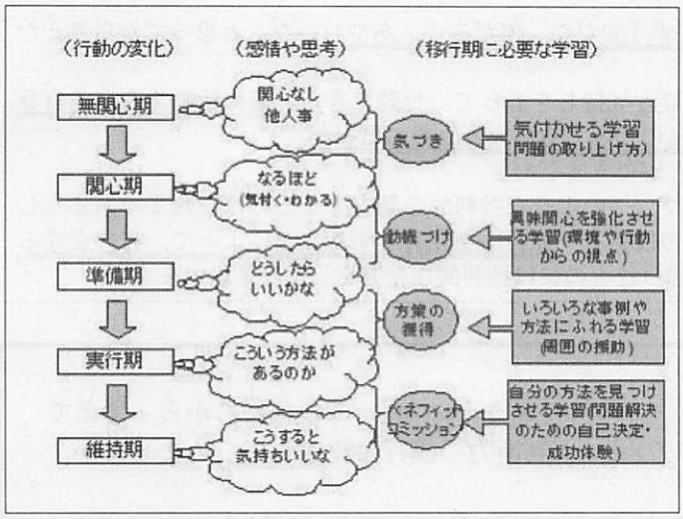








「得意分野は生かすことができたか」の問いを設定した理由は，自分のよい面をより高めようとする気持ちを育てるためである。そのため，授業の前に，授業中の主な活動を知らせ，その活動の中で，自分が得意な活動に○を付けさせ，その活動の時は積極的に行動し，自分のよい面を活用しようという意図を生徒に伝えた。その結果が上の通りである。91％の生徒は，自分を生かすことができた行動をとったようである。「共生」に関わる「話し合い」についても，全員が楽しかった，活発にできた，もっとしたいと感じたようであった。しかし，活動中，積極的な関わり合いがあまり見られず静かな様子がうかがえたＡクラスがあった。アンケート結果㋑が示しているように，全員が楽しいと感じており，Ａクラスの生徒も活動を楽しいと感じていたのは，人と人との関わりを楽しんだのではなく，人ともの（教材）との関わりを主に楽しんだのかもしれ



資料５　行動段階と感情や思考の関係

ない。Ｂクラスは，活動中は積極的な関わり合いがよく見られた。クラスによって関わり合いの様子が違う原因は，Ａクラスは，「再思考」の時間を多めにとり，Ｂクラスは，「体験」の時間を多めにとったため，生徒の関わる対象がＡクラスでは「物」とであったり，Ｂクラスでは「人」であったりしたのだろう。Ａクラスでは，発表するための話し合いをする時間を多く設けていれば，ものとの関わりを十分した生徒は，人との関わり合い（話合い）も活発になったのではないかと反省している。また，Ｂクラスでは，生徒の様子を見て，臨機応変に，時間配分をすれば，自分の考えを述べ，認めてもらえる場の設定ができ，自尊心を高める場面があったであろう。

身に付けさせたい「批判的な思考」については，活動後のアンケートに答えた全員が「とても必要（80％）」「どちらかといえば必要（20％）」と，必要だと感じたようだ。また，批判的な見方をする練習もアンケートに答えた全員が「できた」と答えていた。学習の流れに関しては，今回の流れで続けて学習させることでもねらいは達成できると解釈した。

情報への対処についての学習成果は，自由記述の感想と標語に表わすことをさせた。また，自由記述の内容の質を見取りたいと思い，昨年作成した資料５を基に，生徒の感想がどの時期に当たるのか分類した（資料６）。その結果，自分のこととして捉え，行動につながりそうな感想が多かった。しかし，生徒の感想にあるように，「難しかった」と感じている生徒もいた。行動につなげるには，題材をかえて，もう一度情報対処に関する授業を行い，批判的思考を活用させる授業を実施するなどの，個人や集団へのアプローチが有効だろう。

項　　目	%
無関心期：問題に気付いていない。気付いていても，自分には関係ないと思っている。	0
関　心　期：自分の問題と意識はしているが，自分のこととして捉えられない。	26
準　備　期：自分の問題として捉え始めている。	28
実　行　期：行動を起こすことができる時期ではあるが，自分の自己実現にとって必要な行動だと感じていない。	27
維　持　期：行動を維持することで，自分にとっての利益（精神的・身体的・社会的）を感じている。	19

資料６　感想から見た行動段階

＜生徒の感想（抜粋）＞

○　普段読んでいた雑誌は，疑わずに読んでいたので，気を付けようと思いました。批判的に見てみると，「確かに，本当じゃない気がする」というところがあったので，また読み返してみようと思います。

○　普段見ている雑誌にも，うそが書いてある確率がけっこうあるから気を付けなければならないと分かった。班の人と相談しながら，批判的な見方ができた。サイトなど，まどわされて利用したらいけないのはなぜか理解できた。

○　批判的に見るのがとても楽しかったです。インターネットのことをすべて信じないことに気を付けたいです。

○　私がいつも買っている雑誌に，少し危ないところがあるのにおどろいた。

○　うそのような情報がたくさんだった。自分の意志を持たなければならないと思った。

○　私は「これいいな！」と思ったり，「欲しいな…！」と思ったりすることはあまりなくて，「そっ

か。」と思うことの方が多いです。だからまず「変だな，何だろう，あやしいな」と思ってから考えたいです。
○ 広告を見て，たくさんのことに対して，疑う気持ちをもって，行動できた。班で活動すると，自分が気付かなかったところに，気付いてくれるのでとてもいいと改めて思った。
○ 少し内容が難しかったけど，理解することができました。
○ 私はすぐ信じ込んでしまうことが多いので，このような批判的な見方をするのはこれまであまりしたことありませんでした。けれども，今回の授業で，批判的な見方をすることによって，自分を守ることができると知り，これからは怪しいと思ったものには批判的な見方をしようと思います。

＜標　語＞
情報を鵜呑みにしたら負けですよ　「あやしいな」 この気持ちから　考えて
「もしかして…」その感覚を　忘れずに　判断力　流行に流されて　いませんか？
信じるか　信じないかは　あなた次第

次に，長期評価として，同じ対象生徒に，授業後３ヶ月後に実施したアンケート（雑誌の情報への対処方法，批判的な思考のイメージ，批判的な思考の活用）から検証する。雑誌の情報への対処方法については，数年前の実例「業者からの勧誘」について例を出し，その対処方法を台詞で書かせた。グラフはないが，情報を鵜呑みにしない対応がとれていた割合は，Ａクラスでは90%，Ｂクラスでは75%であった。また，「批判的な思考を生活の中で使ったことあるか」の質問では，Ａクラスは75%，Ｂクラスは78%の生徒が「使用した」と答えていた。しかし，「批判的な思考についてのイメージ」を自由記述させた内容を見ると，「鵜呑みにしない，疑ってみる」という内容を書かず「ネガティブな考え方」という間違った捉え方を書いている生徒は，Ａクラスでは10%，Ｂクラスでは23%もいた。これらの結果から，Ａクラスで実施した「再思考」の時間を多く取り入れた単元構成をした方が「行く河の時間」のねらいが達成できるのではないかと考える。

また，長期評価として，中学３年生にもアンケート調査を実施した。３年生には１，２年の間に「行く河の時間」としての学習を６時間実施した。(p215の１，３を実施) 抽出したＣクラス (40名) に，これまでした学習で覚えていることを自由記述させた。その結果，記憶に残っている量の差はあったものの，教師が意図した学習内容を記述していた生徒は，88%であった。また，学習したことを生活の中で思い出したり活用したことがあると答えた生徒は，53%であった。「体験」や「再思考」を取り入れた単元構成をしたため，長期間，記憶には残っていた。しかし，活用度が高くなかったため，生徒たちが自ら「活用したくなるような能力」について調査する必要がある。

大学生の感想から検証する。大学の共同研究者のアイディアで，同じ情報への対処の授業を大学生にも実施し，授業の内容や授業の流れについての感想を聞くことができた。大学生は，９月の授業公開で本授業の観察をし，２ヶ月後に実際に生徒役になってもらい，授業を受ける立場となっての意見がもらえた。大学生は，この授業の構成（特に，広告を自分で作っておいてから，批判的な見方で情報を見る学習の流れ）で，行く河の時間のねらいをよく理解できたので今後も，現行で進めようと考えている。また，教材の選択，利用方法については，授業参観者だけでなく，学生からも生徒の興味を引くものであると評価された。

＜大学生の感想（一部）＞
○ 教育実習で一度見ていたので，全体の流れや意図を理解したうえで授業を受けましたが，実際に受けてみると印象に残る授業でした。性に関して生徒は興味を抱いていると思います。興味があるからこそ，ネットの情報や周りの誘惑に流されやすいです。誤った知識をどう見抜いていくのか，何が正しくて何が間違っているのかを見る力は普段から意識していなければいざという時には使うことができません。ましてや，周りの環境に流されやすい中学生においてはとても注意しなければならないことだと思います。

○ 様々なグループ活動が入っていて，授業を受けていて楽しく学べました。グループで，パズルをしたり，広告を作ったり，雑誌から気になる言葉を探したりなど，様々な活動をすることができ，受けている側としては，教師からの一方的な話よりも，楽しみながら学習することができました。広告作り，雑誌の気になる言葉探しを通して，情報に嘘を入れてしまう気持ちと，情報を誤りとして見る気持ちを体験することができ，とても貴重な経験をすることができました。普段，広告や雑誌などを見ていても，あまり疑った気持ちで見ないため，情報を鵜呑みにしてしまいがちであったのに対し，今回の活動を通して，情報を疑いの目で見てみると，こんなに気になる部分が出てくることに驚きました。また，その前の活動で行った広告作りを通して，自分が作る側になると上手い文句を勝手に作って，誤った情報を入れてしまう気持ちも理解することができ，どちらの気持ちも体験することができたので，とても深い授業だなと感じました。

第3章　おわりに

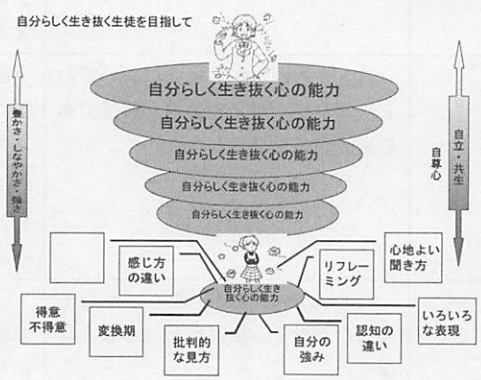
3年間の実践を下の表にまとめた。カリキュラム案としては，次のように考えている。表の番号1～7の実践は，ねらいを達成するために必要な最低時間数を挙げているため，示している時間数の確保は必要である。番号1～7は，実践すべき順序を示しているものではなく，目の前の子どもたちの実態に応じて，番号1～7の実践を選択すべきである。ただし，番号2と7は，1年生の他教科で学習する内容と関連があるため，1年生時期に実施するとよい。また，番号5は，1，2年の進路指導と関連させると効果的である。

番号	実　態	ねらい	時数・対象	時間帯
1	学校行事の活動で「思い込みで傷ついた生徒」や「思い込みで友人を傷つけている生徒」が多く見られた。	自他の認知の違いを気付かせ，自他を排除したり傷つけたりするのではなく共生する方法を見付けさせる。	1時間 1年生対象 「魔法の心のつぶやき」	総合的な学習の時間
	認知の変換ができにくい生徒たちがいた。その生徒たちは，自尊心が低い様子が見られた。	気持ちが軽くなる認知の変換ができにくい人がいることを理解させ，自尊心を高め合う活動をさせる。	1時間 1年生対象 「よいところ探し」	総合的な学習の時間
2	人間関係でストレスがたまっている生徒が見られた。	ストレスについて知り，対処法について考えさせる。	1時間 1年生対象 「欲求やストレス対処」	保健体育 保健学習
	友人関係での表現がきつい生徒が見られるようになった。	コミュニケーションのタイプを理解させ，どのようなタイプの表現がいいか考えさせる。	1時間 1年生対象 「伝えたいことは何？」	特別活動
		自分が見つけた表現方法をロールプレイで体験し，再度，表現方法を考えさせる。	1時間 1年生対象 「人との関わり」	保健体育保健学習
3	ストレスがかかる場面においてのトラブルへの対応や処理が苦手である生徒が多く見られた。	自分たちの悩みや弱点に焦点をあてて，短所を長所に変えるトレーニングをさせる。	1時間 3年生対象 「一言リフレーミング」	総合的な学習の時間
		疲労思考に気付かせ，自己内対話をさせ，非合理的ビリーフを考えさせる。	1時間 3年生対象 「非合理的ビリーフ」	総合的な学習の時間
4	いろんなことがうまくいかなくなったと考える生徒が目立つようになった。	「心の癖」「自分の転換期」について理解させ，いろいろなタイプの生かし方について思考させる。	1時間 2年生対象 「自分の生かし方」	特別活動
5	自分らしさ，自分の特性が分からない生徒が多く見られた。	自分らしさを「職業レディネステスト」で見つめ直させ，自己の活かし方を考えさせる。	3時間 1年生対象 「自分らしさを考える」	総合的な学習の時間

6	生死について軽んじる様子が見られた。 死に直面した生徒が心の整理の仕方が分からない様子や，その生徒の周囲の者のサポートの仕方が分からない様子が見られた。 周囲の人々を大切に思う気持ちを忘れかけている様子が見られた。	「自分の大切なもの」について考えることを通して，自分を見つめさせる。聴くスキルを活用することで他者を理解する体験をさせる。	1時間 対象　未定（教員・大学生・保護者には実施済み） 「自分の大切なもの」	特別活動
		大切なものがなくなることを模擬体験することによって，命の大切さや自分の命の使い道について改めて考えさせる。	1時間 対象　未定（教員・大学生・保護者には実施済み） 「私の命の使い道」	特別活動
7	うわさ話などのいろいろな情報に流されて行動する危険性が見られた。	情報は，発信者に悪気がなくても，大げさに言っていたり，嘘が混じっていたりすることがあることを理解させる。	1時間 1年生対象 「広告を作ろう」	保健体育保健学習（発展）
		情報を鵜呑みにするのではなく，批判する思考力を活用し，情報を読み解く必要があることを理解させる。	1時間 1年生対象 「正しい情報って？」	保健体育保健学習（発展）
		実際にありそうな「うわさ話」に関するトラブルを挙げ，それに対する対処法について考え，自分ができる対処法をいくつか見つけさせる。	1時間 1年生対象 「トラブルとその対処法を考えよう」	特別活動

将来，子どもたちが持続可能な社会を築くことができる人となるには，まだまだ多くの知識や経験が必要である。そして，小さなことから大きなことまで，自分で考え選択し，決定することを積み重ねて行かねばならない。そのような中，自分らしく生き抜いていくには，失敗におびえたりするのではなく，失敗を生かすことができ，その過程を楽しめることができる人となってほしいと思う。また，失敗も困難もしなやかにかわしたり乗り越えたりすることができる人であることも重要だと考える。「行く河の時間」では，前に記述した人に近づくために，資料7のように，自尊心・自尊感情を高めながら，心のしなやかさや強さも育てていきたいと考えている。自尊心に関しては，①よいところ探しやほめほめシャワーのような直接自尊心に働きかける方法と，②成功体験を積ませて自尊心を高める方法③生徒たちが自尊心を低下させられているものへの対処法を学び自尊心の低下を防ぐ方法を用いての学びをつくってきた。これまでの実践から，授業は，「知識」「体験」「再思考」の流れをつくった学びが効果的だと考えている。効果的な学習の流れと題材をこれからも増やし，授業づくりをしていきたい。

心のしなやかさや強さの育成に関しては，今後実践したいと考えている。来年度は，いじめの第1次予防としての学習を提案していきたい。内容は，これまで実践してきたものをアレンジしたり，「いじめの傍観者」にアプローチできる学びを考えて授業づくりをしたりしていきたい。



資料7　行く河の時間の取組

<参考文献>

- 日本学校保健学会　「学校保健研究　第59回日本学校保健学会講演集」 2012
- 島井哲志「ポジティブ心理学―21世紀の心理学の可能性」ナカニシヤ出版　2006
- ハワード・ガードナー　松村暢隆訳「MI：個性を生かす　多重知能の理論」2001